

<p>2. 事業の目的と概要</p> <p>エル・パライス県トロヘス市 CMI に妊婦の家を1箇所建設する。また、CMI 及び保健所職員、保健ボランティアの啓蒙・教育活動を行うことにより、事業地の施設分娩を推進し、母子の死亡率減少を目指す事業である。</p>																					
(1) 上位目標	<p>上位目標：事業対象地域における母子死亡率が減少する</p> <p>事業目標：事業対象地域における母子保健施設の利用が促進される</p>																				
(2) 事業の必要性(背景)	<p>(イ) 事業実施国における一般的な開発ニーズ</p> <p>ホンジュラス共和国(以下、ホ国)は、中南米でも最も開発の遅れた国の一つであり、「人間の安全保障」やミレニアム開発目標(MDGs)の達成の必要性を含め、多様な開発ニーズがある。ホ国保健省は、MDGsの目標達成に向け、「保健国家計画2021年(Plan Nacional de Salud 2021)」を作成する等の取り組みを展開しているが、特にMDGsの目標に直接寄与する妊産婦および乳幼児の死亡水準は中南米平均と比べると高い。</p> <p>【主要保健指標のホ国・中南米平均・日本対比】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ホ国</th> <th>中南米平均</th> <th>日本</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5歳未満児死亡率¹</td> <td>30</td> <td>23</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>乳幼児死亡率²</td> <td>25</td> <td>19</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>新生児死亡率³</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>妊産婦死亡率⁴</td> <td>110</td> <td>85</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>出典：国連児童基金『世界子供白書2010』</p> <p>このような状況に鑑み、ホ国保健省はこれまでの取り組みを一層強化する必要があるとし、2008年に「妊産婦および乳幼児死亡率の減少促進2008年-2015年戦略(以下、RAMNI: Reducción Acelerada de la Mortalidad. Materna y de la Niñez, 2008-2015)」を策定した。RAMNIにおいては、妊産婦死亡率の減少に重要な役割を果たす施設分娩の普及のため、2015年までに全国の母子保健センター(CMI: Clínica Materno Infantil)に付属施設として「妊婦の家」を設置することを目指している。「妊婦の家」は、出産日の近い妊婦やその家族が滞在する施設であり、CMIで出産予定の妊婦ならば誰でも無料で利用可能である。また、農村部においては、妊婦健診や検査等でCMIを利用した妊婦に対し、居住村が遠方のため帰宅困難な場合、宿泊を認めることもある。通常、「妊婦の家」には、寝具や台所用品等、一般的な生活に必要な設備が整えられ、利用者は食材を持ち込んで自炊するなど、滞在費用がかからないように配慮される。</p> <p>(ロ) 申請事業の必要性</p>		ホ国	中南米平均	日本	5歳未満児死亡率 ¹	30	23	4	乳幼児死亡率 ²	25	19	3	新生児死亡率 ³	4	11	1	妊産婦死亡率 ⁴	110	85	6
	ホ国	中南米平均	日本																		
5歳未満児死亡率 ¹	30	23	4																		
乳幼児死亡率 ²	25	19	3																		
新生児死亡率 ³	4	11	1																		
妊産婦死亡率 ⁴	110	85	6																		

¹ 5歳未満児死亡率：出生1,000人に対し、満5歳に達する日までに死亡する数

² 乳幼児死亡率：出生1,000人に対し、満1歳に達する日までに死亡する数

³ 新生児死亡率：出生1,000人に対し、生後28日以内に死亡する数

⁴ 妊産婦死亡率：出生10万人に対し、妊娠関連の原因で死亡する女性の年間人数

上述の通り、ホ国の政策においても施設分娩率の向上を推進しており、都市部における施設分娩率は高くなっているが、地方においては依然として自宅分娩件数が多く、特に山間部ほど施設分娩の割合は低い。ニカラグア国境沿いの山間部に位置するエル・パライソ県トロヘス市においては、施設分娩率は35%にとどまっている。これは同県内の他地域における施設分娩率(77%)やホ国平均(89%)と比較しても非常に低い割合である。

【施設分娩率比較】

	トロヘス	エル・パライソ 県他地域	ホ国
施設分娩率	35 %	77%	89%
TBA の介助による分娩率 ⁵	47%	21%	9%
非衛生分娩率 ⁶	16%	2%	2%

トロヘス市における施設分娩率が低い理由として、地理的要因、文化的要因、妊婦自身の知識不足が挙げられる。地理的要因としては、山間部の村からCMIや病院までの距離が遠く移動が容易ではない点が挙げられる。特に公共交通機関がないトロヘス市周辺の山岳地域では、車両や馬を持たない多くの住民の移動手段は徒歩である。遠方の村落であれば、山道を下り、時には橋の架かっていない川を腰まで水に浸かりながら渡って、CMIがある市の中心部まで数時間の道のりを歩いて行かなくてはならず、出産が近い妊婦にとって容易なことではない。しかし、親戚や友人の家がある等といった場合を除き、市街に滞在できる場所がない妊婦は出産予定日間近や陣痛が始まってからCMIに向かわざるを得ず、移動中にお産が始まってしまうケースやCMIでの出産を諦め自宅で生むケースも散見される。文化的要因としては、男性優位の傾向が強い村社会において妊婦は施設での出産を望んでいても、夫が自宅出産を望んでいるために、それに従わざるを得ないケースがある。妊婦自身の知識不足という点では、保健施設に馴染みのない妊婦の中には、CMIでの出産は帝王切開になる可能性が高い、という誤った情報を信じており、手術されるのではという恐怖感からCMIでの出産を選ばないケースが見受けられる。妊婦自身、また夫をはじめとする家族の意識の向上が必要である。

住民の意識の向上については、当団体がエル・パライソ県内の65村(うちトロヘス市内の対象村は29村)で実施済の母子保健向上支援事業において、母子保健教育の一環として安全な出産についての啓発活動やCMI利用促進活動を実施しているが、トロヘス市全体を見ると、周産期保健への意識向上が必要な状況である。2010年6月には当団体の設備支援により同県ダンリ市サンタ・マリアCMI付属の「妊婦の家」の運営が開始され、現在、利用者数が徐々に増加している。それに伴い、同CMIの利用者も1割強増加した。

⁵ TBAの介助による分娩率：TBA(Traditional Birth Attendant: 伝統的助産師)の介助により自宅でお産する件数

⁶ 非衛生分娩率：家族などの非医療従事者の介助、または誰の介助も受けずに自宅でお産する件数

	<p>同県内にはサンタ・マリア CMI を含む 3 箇所の CMI が設置されているが、他の 2 箇所にはいまだ「妊婦の家」は設置されていない。そこで、本事業においてトロヘス CMI に付属する「妊婦の家」の建設、CMI および「妊婦の家」利用促進支援、およびコミュニティにおける周産期保健教育を行い、母子保健施設の利用促進に貢献したい。</p>
(3) 事業内容	<p>本事業は、以下の活動を展開する。</p> <p>活動 1. トロヘス CMI に付属する 1 箇所の「妊婦の家」の建設・運営にかかる活動</p> <p>活動 2. CMI および保健所におけるサービスの質の向上にかかる活動 (CMI、保健所スタッフに対する研修等)</p> <p>活動 3. 保健ボランティアによる周産期保健教育実施にかかる活動 (保健ボランティアを対象とした研修等) (各活動の詳細については、別紙 2 参照)</p>
(4) 持続可能性	<p>本事業はトロヘス市に「妊婦の家」を 1 箇所建設、保健教育の実施により母子保健施設の利用を促進することを目標としている。</p> <p>「妊婦の家」および供与備品は、カウンターパートであるエル・パライス県保健事務所に譲渡され、その管轄下にあるトロヘス市保健委員会をメンバーとする「妊婦の家」運営委員会により管理運営される。本事業では「妊婦の家」運営委員会の組織化、研修、モニタリングも行い委員会の能力向上に努める。同委員会は既に活動実績があり、同県保健事務所の監督下において管理運営されるため、持続可能性に問題はないと考えられる。本事業終了後にも、現地医療機関、保健ボランティア、「妊婦の家」運営委員会等住民の自助努力による持続性が期待される。</p>
(5) 期待される成果と成果を測る指標	<p>(イ) 裨益者数</p> <p><u>直接裨益者</u> トロヘス市の妊婦：約 800 人 (2010 年の妊婦数から推定)</p> <p><u>間接裨益者</u> トロヘス市の住民：40,742 人</p> <p>(ロ) 期待される成果</p> <p>本事業は「事業対象地域における施設分娩件数が増加する」ことを目的としており、その成果を図る指標として以下を用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - トロヘス CMI で出産する妊婦のうち半数が「妊婦の家」を利用する - 同 CMI の妊婦健診受診者数が 2 割増加する - 同 CMI における産後健診受診者数が 2 割増加する - 事業対象地域の妊婦のトロヘス CMI を含む母子保健施設における出産件数が 2 割増加する <p>また、上位目標である「事業対象地域における母子死亡率が減少する」に対しては、以下を指標として用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - トロヘス市における妊産婦死亡数の減少 - トロヘス市における新生児死亡数の減少 <p>(各活動ごとの成果と成果を測る指標については、別添 2 - 2 Project Design Matrix 参照)</p>